

第15回「多チャンネル放送市場・事業者予測調査」結果発表 調査以来最大の緊迫感を抱く結果に

多チャンネル放送研究所（所長：音 好宏）は、第15回目となる「多チャンネル放送市場・事業者予測調査」を実施しました。これは、同研究所が（一社）衛星放送協会の正会員社の各チャンネルを対象に、多チャンネル放送マーケットの現状と先行き見通しについて調査しているものです。

本調査では、『現状』、『1年後』、『2年後』という3つの時点について、会員各社が多チャンネルマーケットの動向をどのように捉えているかを訊ねています。

調査時点が2014年11月で、『1年後』は2015年後半、『2年後』は2016年後半になります。

2014年6月、スカパー！プレミアムにおけるMPEG-2方式のSDテレビ放送サービス終了などの影響もあって、DTHプラットフォームの加入者獲得で厳しい状況が続いており、このことを反映して、今回の調査結果では、事業者が、調査を開始して以来最大の緊迫感を抱いていることが明らかになりました。

多チャンネル放送研究所では、今後も定期的に調査を実施し、会員各社の多チャンネル放送のマーケット観を立体的に捉えていく方針です。

調査結果の概要

1. 自社チャンネルの加入者動向について今後はやや横ばいに

自社チャンネルの全体的な加入者動向では、『現状』で「減少」(47.8%)が約半分を占め、続いて「横ばい」(35.6%)「増加」(15.6%)の順となっている。

また『1年後』については「減少」(43.3%)が最も多く、「横ばい」(41.1%)、「増加」(14.4%)の順になり、『2年後』も「減少」(43.3%)、「横ばい」(40.0%)、「増加」(15.6%)と『1年後』とほぼ同じ傾向となっている。

「減少」だけで見ると『現状』(47.8%)が『1年後』(43.3%)、『2年後』(43.3%)に比べ最も大きくなっている。今年度は加入者減が厳しい年となったが、来年以降は減少から横ばいにやや移行していくという見方をしているということが明らかになった。

2. 多チャンネル放送全体についての見方は二極化傾向

『現状』においては、「減少」が48.9%、「横ばい」が47.8%、「大幅減」2.2%となった。「減少」と「大幅減」をあわせた「減少傾向」が50.0%と半数を占めた。「増加」については1.1%となっている。『1年後』、『2年後』については、『1年後』が「減少」52.2%、「横ばい」が43.3%、『2年後』は「減少」51.1%、「横ばい」42.2%と現在よりも今後減少が大きくなると予測している。一方で「増加」については「現状」の1.1%と比較すると『1年後』の増加は4.4%、『2年後』の増加は5.6%と拡大傾向にある。「減少」と「増加」は拡大傾向にあり、全体的には見方が2局化傾向にあると言える。

3. 視聴料収入に対して「増加」と見るも楽観視できないとの見方

『現状』については、「横ばい」もしくは「減少」が合わせて81.1%と8割以上となり、前回(14年5月調査)の78.7%から2.4ポイント増えた。「増加」は前回19.1%から今回14.4%へ、「横ばい」も41.6%から30.0%に減った。一方、「減少」は37.1%から51.1%へ大幅に増え、「大幅減」が2.2%から4.4%に増えた。前回調査で「大幅減」が12年11月調査以来3回ぶりに回答者が出現し、今回の調査で割合が増える結果となった。

『1年後』の予測では、「増加」が『現状』14.4%から21.1%と6.7ポイント増、「横ばい」は『現状』より3.3ポイント増、「減少」および「大幅減」は合わせて6.7ポイント減となった。『現状』より「増加」と見る向きは増えているものの楽観視できないと見る傾向がうかがえる。

『2年後』の予測も、「増加」が『現状』より5.6ポイント増も『1年後』より1.1ポイント減、「減少」および「大幅減」は『現状』より13.3ポイント減、『1年後』より3.3ポイント減であるが、『2年後』も楽観視できないと捉えている傾向がうかがえる。

4. 広告収入は引き続き「横ばい」もしくは「増加」との見方

『現状』では「横ばい」が32.2%と最も多く、次いで「増加」が28.9%となっており、2つの回答を合わせると全体の60%弱を占める結果となった。

『1年後』『2年後』の予測でも2つの回答を合わせた割合に大きな変化はなく、今後も広告収入は「横ばい」もしくは「増加」という見方をしている事業者が多い。

なお、「該当事業無」と回答した広告未実施の事業者が16.7%存在していることについても留意されたい。

5. 「その他事業収入」では現状からの拡大を期待する見方

『現状』では「横ばい」が41.1%と最も多く、次いで「増加」が23.3%、「減少」が20.0%となっており、「増加」「減少」と回答した事業者の割合は同程度であった。

『1年後』『2年後』の予測になると、「横ばい」が最も多い傾向は変わらないが、「増加」「大幅増」の割合が上がり、「減少」が下がっている。

2014年5月実施の前回調査に引き続き、その他事業収入については現状からの拡大を期待する見方が強い。

調査の概要について

1. 調査時期 2014年11月
2. 調査対象 衛星放送協会正会員社の有料チャンネル（90チャンネル）
3. 調査方法 webによる回答・回収法
4. 回答回収数 90チャンネル
5. 回答回収率 100.0%

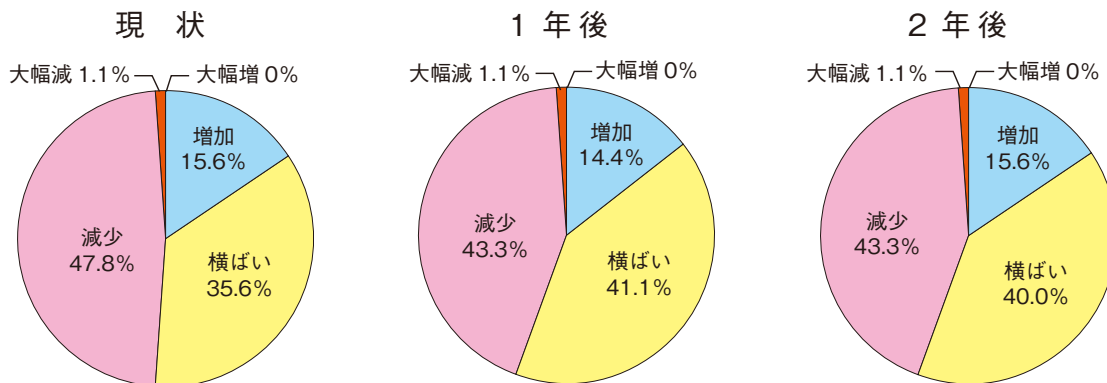
調査結果詳細

1. 自社チャンネルの加入者動向予測

自社チャンネルの全体的な加入者動向では、『現状』で「減少」(47.8%)が約半分を占め、続いて「横ばい」(35.6%)「増加」(15.6%)の順となっている。

また『1年後』については「減少」(43.3%)が最も多く、「横ばい」(41.1%)、「増加」(14.4%)の順になり、『2年後』も「減少」(43.3%)、「横ばい」(40.0%)、「増加」(15.6%)と『1年後』とほぼ同じ傾向となっている。

「減少」だけで見ると『現状』(47.8%)が『1年後』(43.3%)、『2年後』(43.3%)に比べ最も大きくなっている。今年度は加入者減が厳しい年となったが、来年以降は減少から横ばいにやや移行していくという見方をしているということが明らかになった。



2. 自社チャンネルの加入者動向予測推移

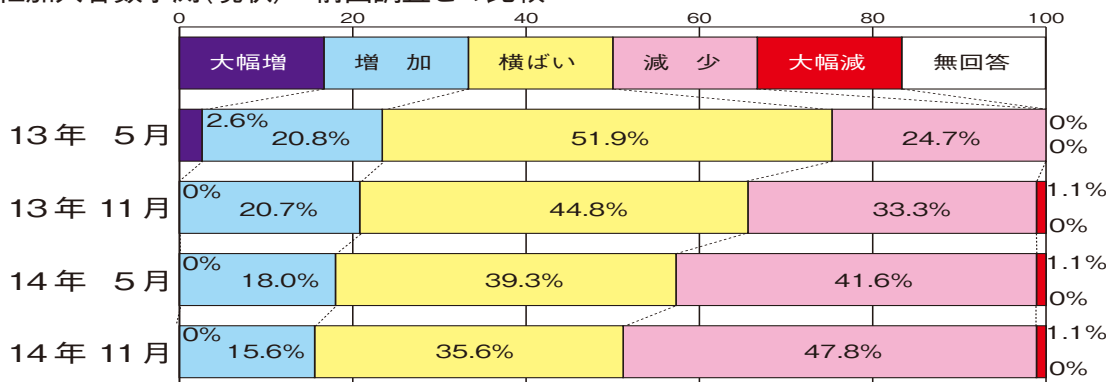
自社加入者について、前回調査(2014年5月)まで『現状』においては、「減少」が徐々に増える傾向にあったが、今回の調査では『現状』では「減少」と回答した事業者が大幅に増加している。これは、近年市場は横ばい傾向が強いと見ていた事業者が、DTH、特にスカパー！プレミアムサービスのSDの放送終了に伴う解約者が一時的に増加したことにより、「減少」に転じたものとも推察される。

『1年後』については「増加」が前回調査では24.7ポイントであったが、今回調査では14.4ポイントと大きく減少、逆に「減少」は31.5ポイントから43.3ポイントと大きく増加している。

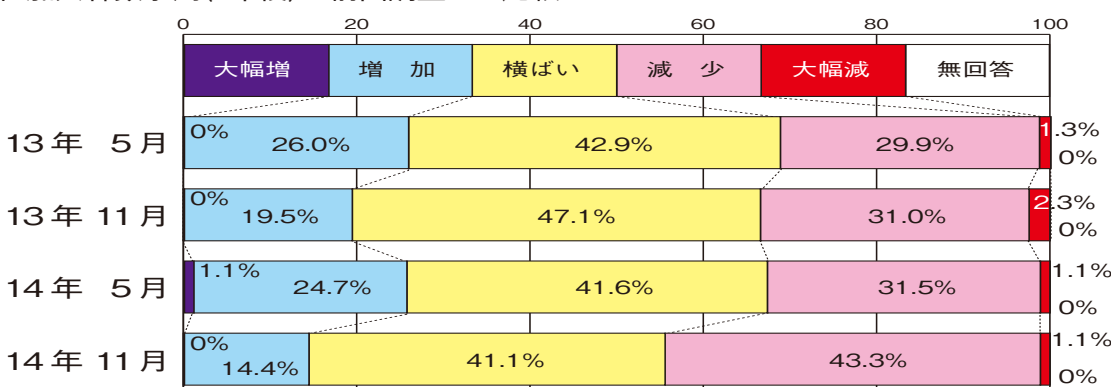
『2年後』についてもほぼ同様の傾向で、「増加」が前回調査では21.3ポイントであったが、今回調査では15.6ポイントと減少、逆に「減少」は27.0ポイントから43.3ポイントと大きく増加している。

これは、スカパー！プレミアムサービスの継続的な減少傾向、スカパー！サービスの加入者の伸び止まりというマーケットの状況を反映してのことであり、前回調査よりも将来展望はより厳しい傾向にあると事業者がみていることがわかる。

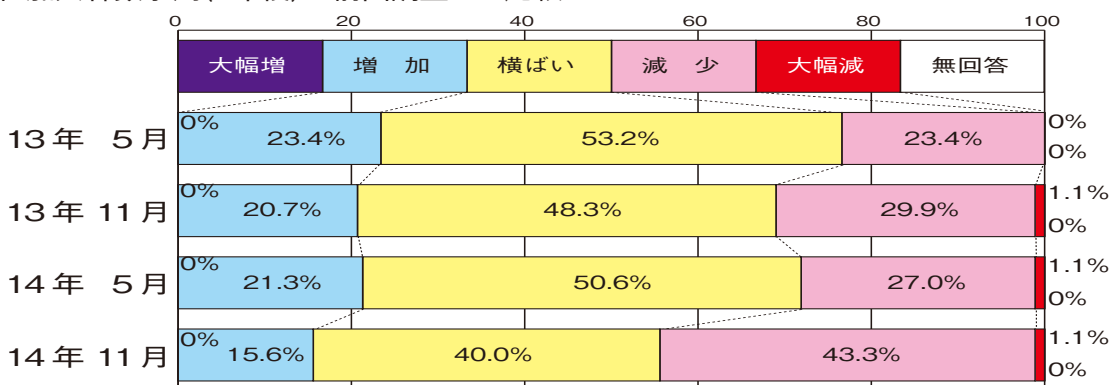
自社加入者数予測(現状)―前回調査との比較



自社加入者数予測(1年後)―前回調査との比較

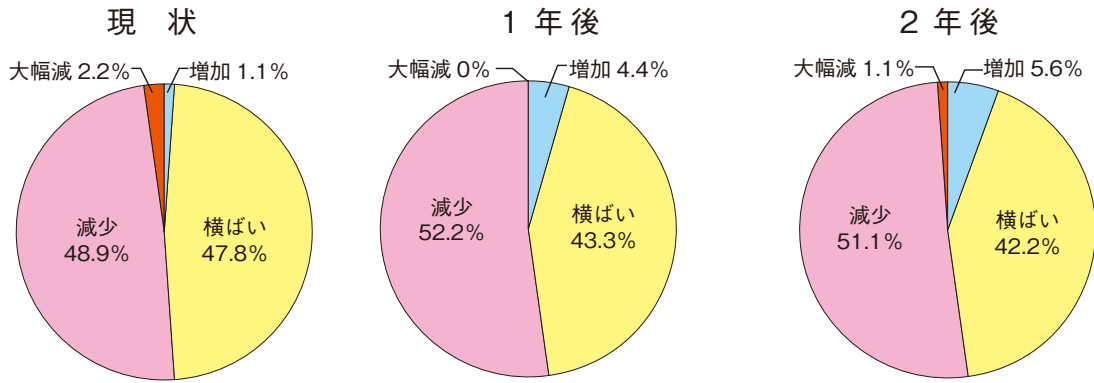


自社加入者数予測(2年後)―前回調査との比較



3. 多チャンネル放送全体の加入者動向

まず『現状』においては、「減少」が48.9%、「横ばい」が47.8%、「大幅減」2.2%となった。「減少」と「大幅減」をあわせた「減少傾向」が50.0%と半数を占めた。「増加」については1.1%となっている。『1年後』、『2年後』については、『1年後』が「減少」52.2%、「横ばい」が43.3%、『2年後』は「減少」51.1%、「横ばい」42.2%と現在よりも今後減少が大きくなると予測している。一方で「増加」については「現状」の1.1%と比較すると『1年後』の増加は4.4%、『2年後』の増加は5.6%と拡大傾向にある。「減少」と「増加」は拡大傾向にあり、全体的には見方が2局化傾向にあると言える。



4. 多チャンネル放送全体についての予測推移

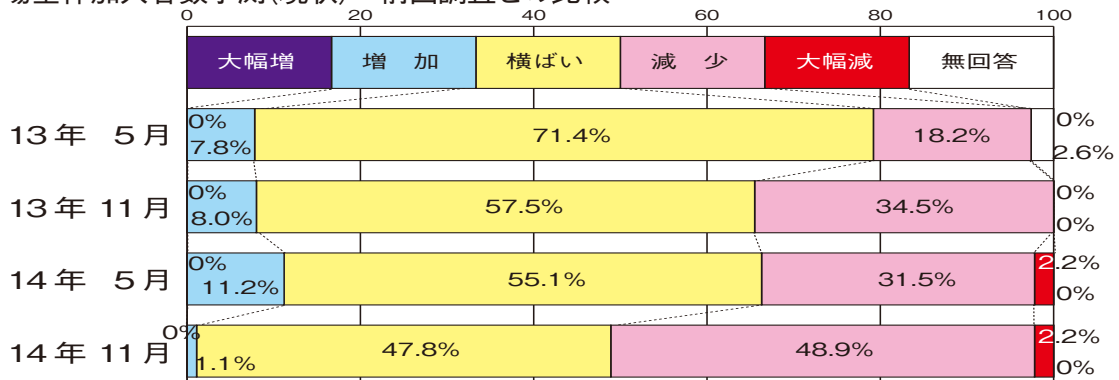
前回調査（2014年5月）までは、『現状』では「減少」が31.5ポイントであったが、今回の調査では「減少」と回答した事業者が48.9ポイントと大幅に増加している。これはスカパー！プレミアムサービスのSD放送終了に伴う解約者が一時的に増加したことにより、「減少」に転じたものと推察される。

『1年後』については「増加」が前回調査では18.0ポイントであったが、今回調査では4.4ポイントと大きく減少、逆に「減少」は39.3ポイントから52.2ポイントと大きく増加している。

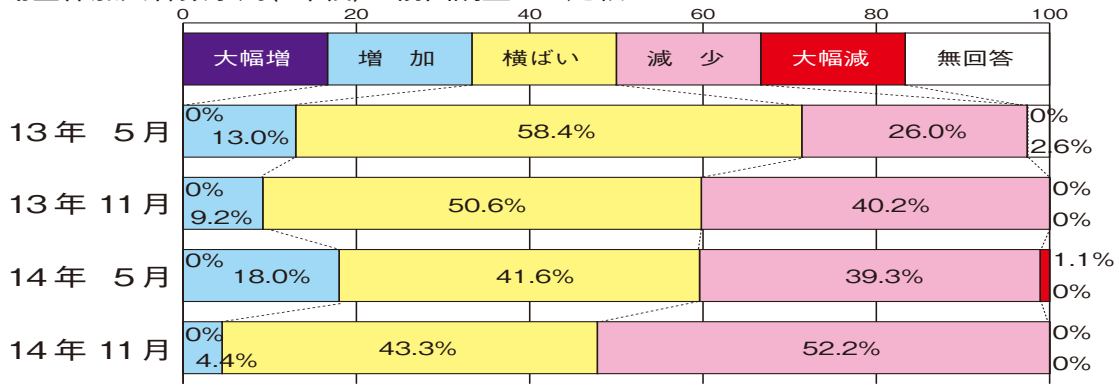
『2年後』についてもほぼ同様の傾向で、「増加」が前回調査では12.4ポイントであったが、今回調査では5.6ポイントと大きく減少、逆に「減少」は39.3ポイントから51.1ポイントと大きく増加している。

これは自社加入者同様、スカパー！プレミアムサービスの継続的な減少傾向、スカパー！サービスの加入者の伸び止まりというマーケットの状況を反映してのことであり、前回調査よりも将来展望は厳しくなっていると見える。

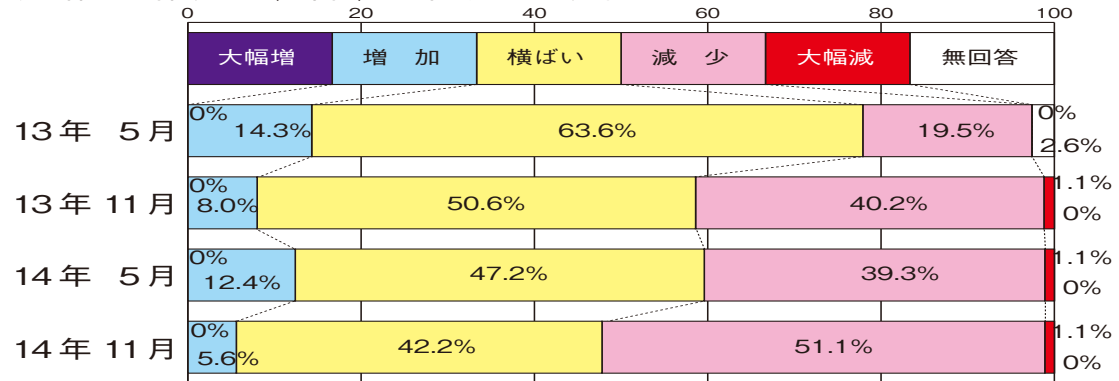
市場全体加入者数予測(現状)―前回調査との比較



市場全体加入者数予測(1年後)―前回調査との比較



市場全体加入者数予測(2年後)―前回調査との比較

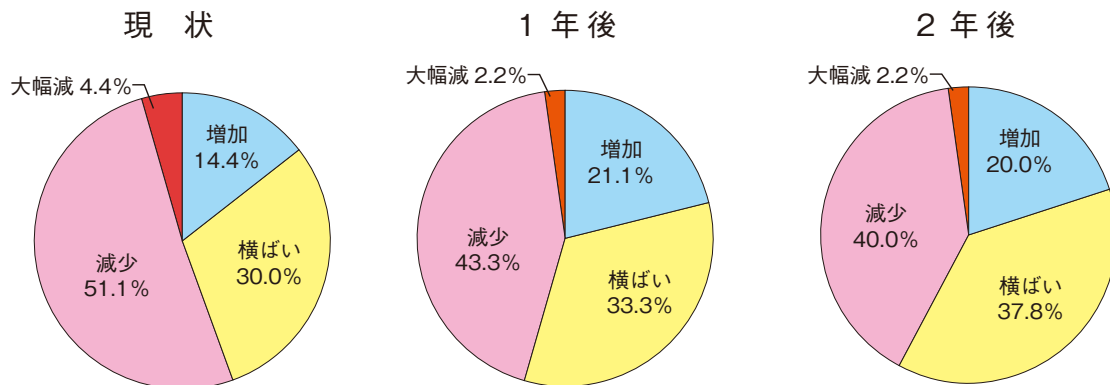


5. 視聴料収入予測

『現状』については、「横ばい」もしくは「減少」が合わせて81.1%と8割以上となり、前回(14年5月調査)の78.7%から2.4ポイント増えた。「増加」は前回19.1%から今回14.4%へ、「横ばい」も41.6%から30.0%に減った。一方、「減少」は37.1%から51.1%へ大幅に増え、「大幅減」が2.2%から4.4%に増えた。前回調査で「大幅減」が12年11月調査以来3回ぶりに回答者が出現し、今回の調査で割合が増える結果となった。

『1年後』の予測では、「増加」が『現状』14.4%から21.1%と6.7ポイント増、「横ばい」は『現状』より3.3ポイント増、「減少」および「大幅減」は合わせて6.7ポイント減となった。『現状』より「増加」と見る向きは増えているものの楽観視できないと見る傾向がうかがえる。

『2年後』の予測も、「増加」が『現状』より5.6ポイント増も『1年後』より1.1ポイント減、「減少」および「大幅減」は『現状』より13.3ポイント減、『1年後』より3.3ポイント減であるが、『2年後』も楽観視できないと捉えている傾向がうかがえる。



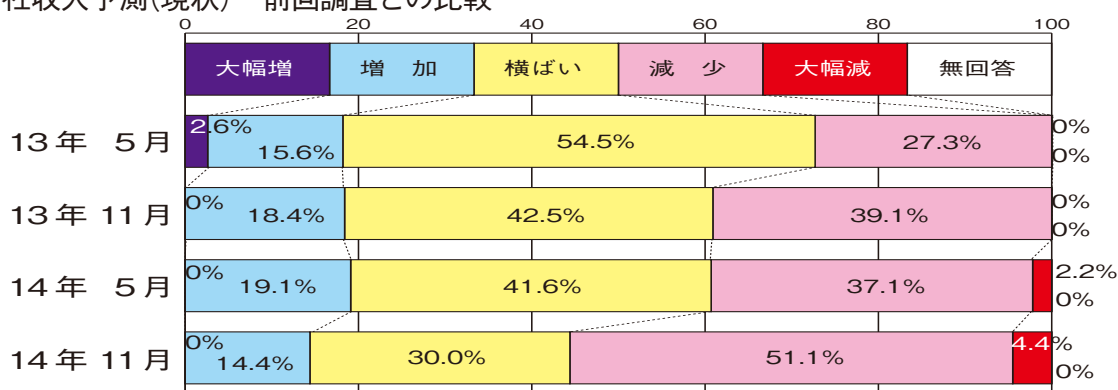
6. 自社チャンネル視聴料予測の推移

『現状』について、前回（14年5月調査）・前々回（13年11月調査）と比較すると、「増加傾向」と答えた事業者は減少しており（18.4%→19.1%→14.4%）、一方「減少傾向」との回答は増えており（39.1%→39.3%→55.5%）、下げ止まる様子が見えない。

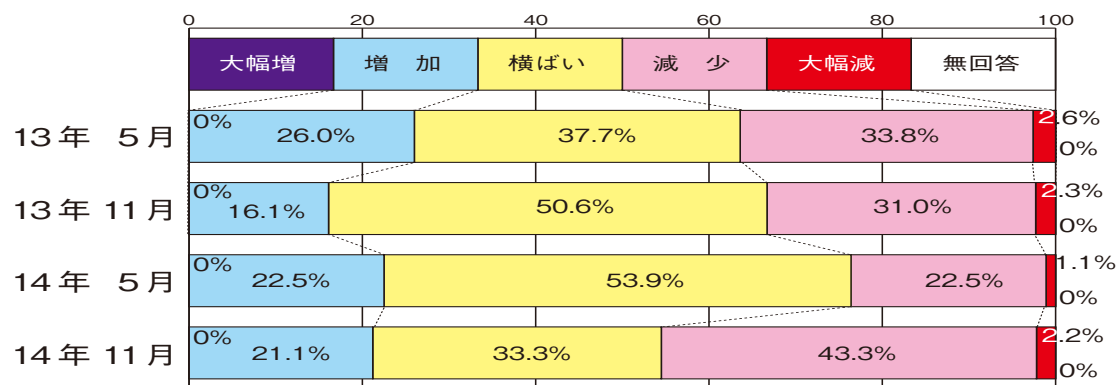
『1年後』の予測では、「増加傾向」という回答は前回からほぼ横ばい傾向（16.1%→22.5%→21.1%）、「減少傾向」は大幅に増えており（33.3%→23.6%→45.5%）、『現状』と同様に厳しい様子が見えてくる。

ただし『2年後』については、「増加傾向」は微増している（17.2%→19.1%→20.0%）。一方「減少傾向」も増えており（27.6%→24.7%→42.2%）、将来予測は見方の分かれる結果となった。

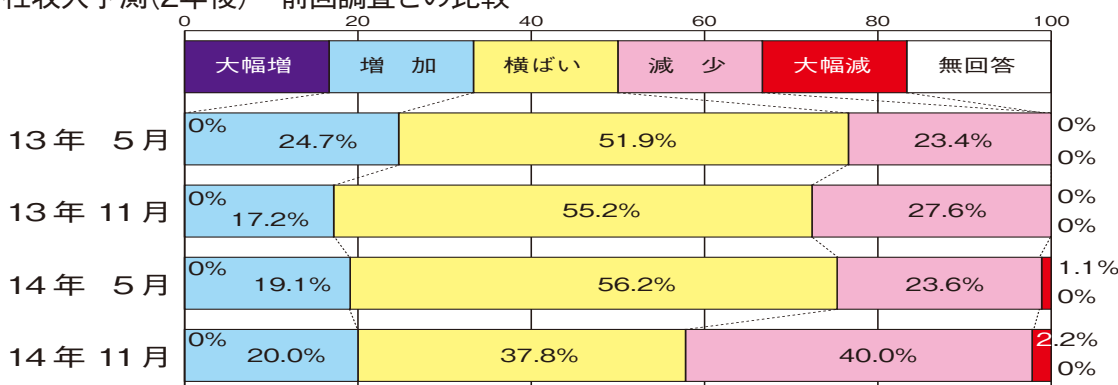
自社収入予測(現状)―前回調査との比較



自社収入予測(1年後)―前回調査との比較



自社収入予測(2年後)―前回調査との比較

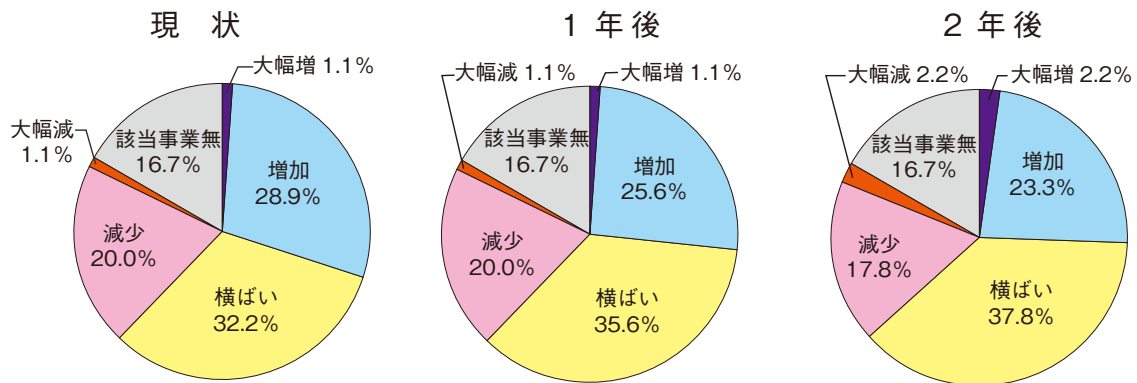


7. 広告収入の動向

『現状』では「横ばい」が32.2%と最も多く、次いで「増加」が28.9%となっており、2つの回答を合わせると全体の60%弱を占める結果となった。

『1年後』『2年後』の予測でも2つの回答を合わせた割合に大きな変化はなく、今後も広告収入は「横ばい」もしくは「増加」という見方をしている事業者が多い。

なお、「該当事業無」と回答した広告未実施の事業者が16.7%存在していることについても留意されたい。



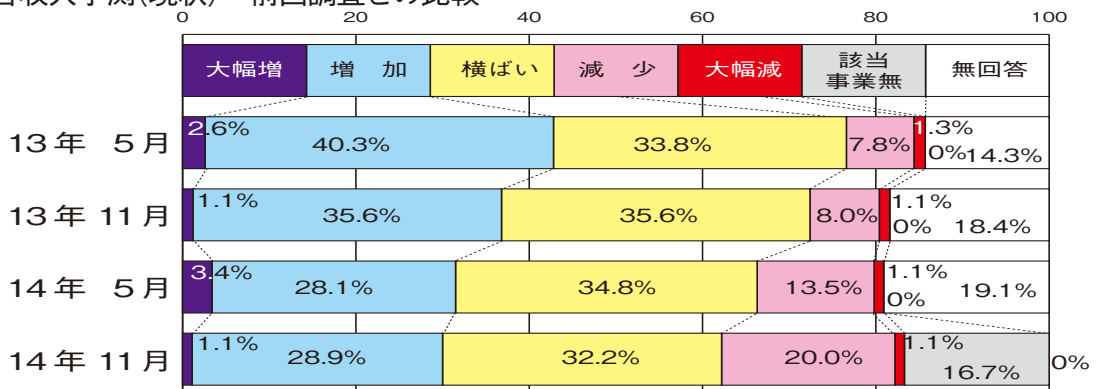
8. 広告収入予測の推移

『現状』については、2014年5月実施の前回調査では、「横ばい」が微減し、「増加」「大幅増」の合計もそれまでの36.7%から31.5%と減少した。

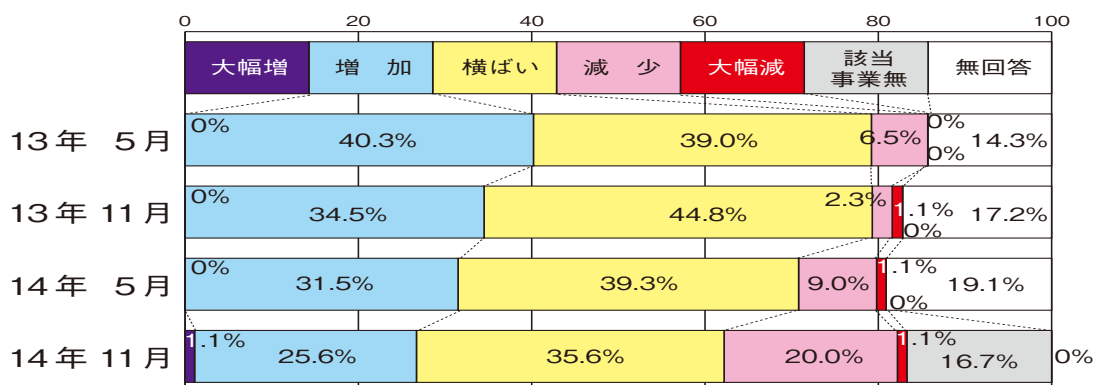
今回調査でも減少傾向は続いており、「横ばい」が32.2%、「増加」「大幅増」の合計も30.0%と微減している。「減少」については13.5%から20.0%に増加した。

『1年後』『2年後』についても、「横ばい」が最も多く、次いで「増加」が多いという傾向は変わらないが、「減少」の占める割合が拡大している。

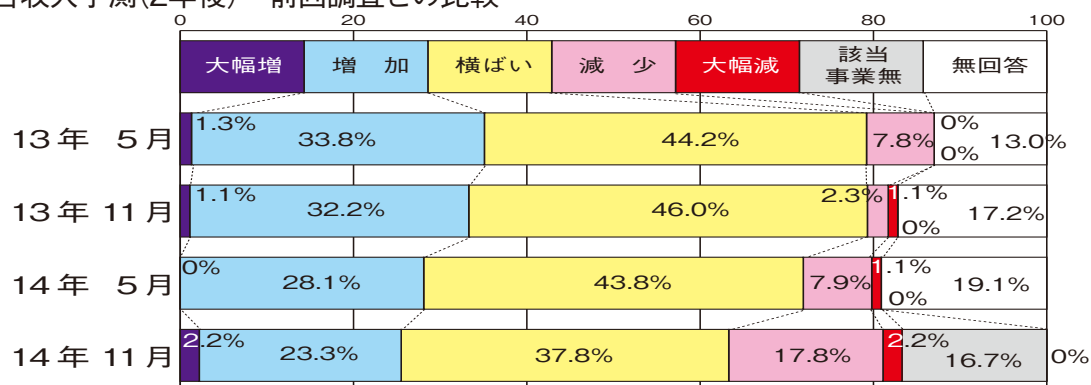
広告収入予測(現状)―前回調査との比較



広告収入予測(1年後)ー前回調査との比較



広告収入予測(2年後)ー前回調査との比較

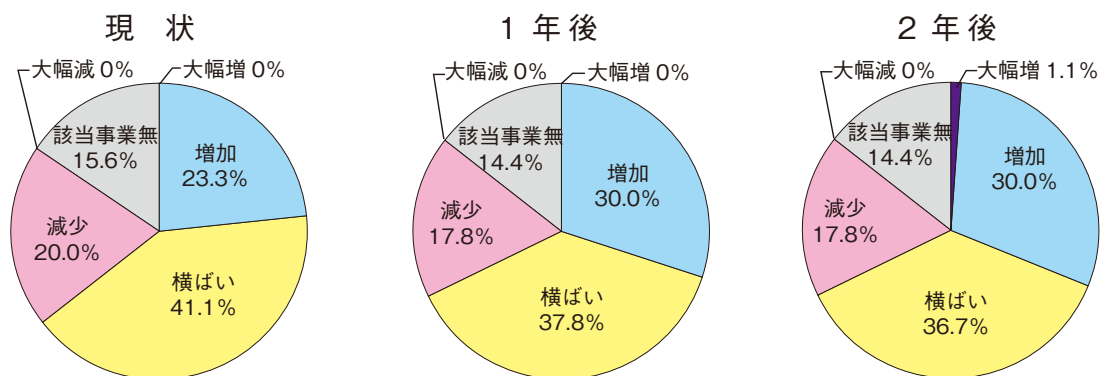


9. その他事業収入予測

『現状』では「横ばい」が41.1%と最も多く、次いで「増加」が23.3%、「減少」が20.0%となっており、「増加」「減少」と回答した事業者の割合は同程度であった。

『1年後』『2年後』の予測になると、「横ばい」が最も多い傾向は変わらないが、「増加」「大幅増」の割合が上がり、「減少」が下がっている。

2014年5月実施の前回調査に引き続き、その他事業収入については現状からの拡大を期待する見方が強い。

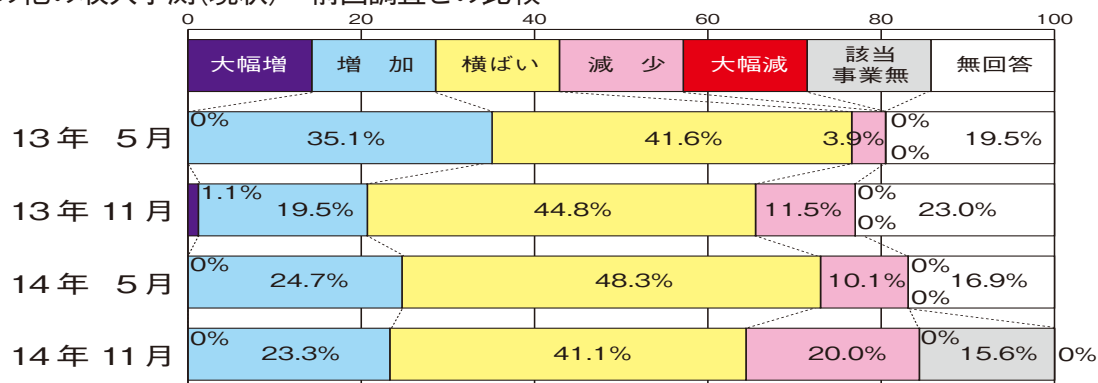


10. その他事業収入予測の推移

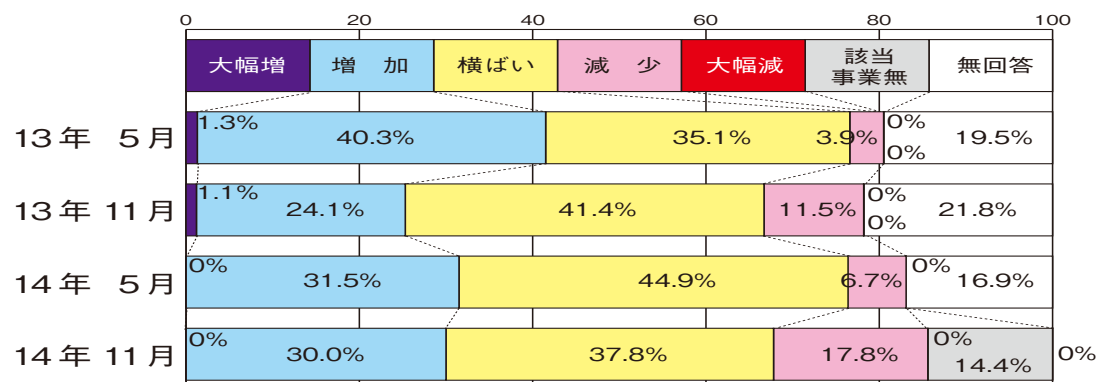
『現在』『1年後』『2年後』のいずれにおいても2014年5月実施の前回調査から「減少」が上がっている。

一方で、「横ばい」は減少、「増加」は約30%で殆ど変わっておらず、各事業者の将来に向けた見方が二極化している。

その他の収入予測(現状)ー前回調査との比較



その他の収入予測(1年後)ー前回調査との比較



その他の収入予測(2年後)ー前回調査との比較

